

## 歴史講座「鷹場と御犬様」

2026-02-25 記 小倉洋一

■実施日：2026-02-19(木)

■参加者：35名（内ところざわ倶楽部4名）

■場 所：生涯学習推進センター多目的室

■講 師：所沢市文化財保護課 木村立彦氏

木村立彦先生による歴史講座は、江戸時代の幕藩体制や所沢の庶民の暮らしを中心に2014年から12回におよび学んできた。

今回は、江戸時代の特異な制度である鷹場と、特異な政策である御犬様についての講座である。二つの制度と政策は、とりわけ所沢を含む江戸近郊農村に対して負担を強いるものであった。

鷹場制度と御犬様の政策はどのような背景で生まれ、どのように負担だったのか、今日残されている資料や痕跡を紹介しつつ、江戸時代の所沢の人々の有り様を当時の資料を参考に学んだ。テーマを次の3つに分けて進められた。

1. 鷹狩りと鷹場制度
2. 尾張藩鷹場と所沢
3. 御犬様の政策と所沢



木村立彦氏による講座

### 1. 鷹狩りと鷹場制度

鷹狩りは中世には勇壮なスポーツとして公家や武士に好まれ、次第に権力者に独占されるようになっていった。徳川家康は鷹狩りを好み、関東へ入封した翌年から盛んに鷹狩りを行い、有力大名に鷹を下賜したり鷹場を与えたりした。3代将軍家光は、鷹狩りを奨励するため鷹場を整備し、江戸城から5里四方までを将軍の鷹場（御拳場）、5里から10里以内を御三家（尾張・紀伊・水戸）の鷹場（〇〇家御鷹場）と認知した。

### 2. 尾張藩鷹場と所沢

所沢市域の村々は尾張徳川家の鷹場に指定された。尾張藩の鷹場は多摩川と荒川にはさまれた

入間郡、新座郡、多摩郡にまたがる広い範囲で、幕府領、旗本領、寺社領が入り混じった地域で、これらの村々は領主の支配を受けるとともに、尾張藩による鷹場としての二重支配を受けた。

尾張藩主徳川義直は鷹場を拝領してから、たびたび鷹狩りを挙行して、寛永 21(1644)年、多摩郡前沢村(東京都東久留米市)に鷹狩りを催したときの市域の村々では、所沢村の 60 人をはじめ、計 506 人の人足負担を強いられた。藩主の休泊にあてられた御殿は当初入間郡扇町屋(入間市)に設けられたが、その後所沢の薬王院に移された。鷹場内の村々には、鷹狩りの時だけでなく普段からさまざまな規制が加えられていた。

### 3. 御犬様の政策と所沢

生類憐れみ政策は延宝 8(1680)年に将軍職についた 5 代将軍綱吉が儒教精神に基づいた法治主義の政治姿勢で臨んだ。生類憐れみ政策はそのような政治姿勢のなかから現れた。貞享 2(1685)年に殺生禁断の方向が示されて以降、次第に強化され、とくに鳥・犬・牛馬に対する生類憐れみ令が続々と発令され、違反者は武士、庶民を問わず重罪に処せられた。江戸市中では捨て犬が増加し、野犬収容の施設を喜多見・四谷・大久保・中野など郊外に造ることになった。とくに中野犬小屋は敷地 16 万坪の中に竹木で急造したもので、犬の食料も一日につき米 330 石・味噌 10 樽・干鰯 10 俵・薪 56 束が必要であったといわれている。ここに野犬が収容されたが、完成即日で 10 万匹運び込まれ収容規模をたちまち超えた。そこで幕府は近郊農村に犬を預け養育させることになった。武州入間郡山口領の村々には元禄 16(1703)年から預けられた。

宝永 5(1708)年北野村上、中、下分の名主管轄下の「御犬預高人別帳」によれば、合計 651 匹が同村の 162 人の農民に預けられている。また上、下勝楽寺村では合計 698 匹預けられた。

犬養育金が支給されたとはいえ、2 戸で平均 4 匹という犬養育のために、農繁期など大変苦しんだ。ところが宝永 6(1709)年正月、将軍綱吉の死によって家宣が 6 代将軍につくとともに憐れみ令が撤回された。ときの為政者によって振り回されるのはいつも民衆である。中野犬小屋も廃止され、御犬御用も撤廃された。しかし農民の安堵も束の間、「御犬養育金」の返納命令があった。北野村では宝永 6(1709)年 6 月から、毎月金 5 両ずつ幕府に返納することになり、以後 8 代将軍吉宗の享保改革が終わる頃まで、30 年間も苦しむことになった。

また御犬世話役の 5 人は村民への返済が遅れて訴えられるなど、散々な目にあった。

とくに未返済額があった北野村三郎兵衛は旗本小林氏によって追放され、未返済額は田畑屋敷の没収により充当されることになった。民政に無知な、狂氣的な政策は、狭山丘陵の農民に消し難い爪痕を残した。

木村立彦講師の歴史講座は年 1 回行われており当サークルの主要な講座となっている。

今回は江戸時代の特異な制度である鷹場と特異な政策である御犬様について学んだ。

来期以降も所沢にかかわりある社会や庶民の暮らしをテーマに学んでいきたいものである。

#### 参考資料・参考文献

本日の「鷹場と御犬様」講座配布資料

所沢市史ダイジェスト版「ところざわ歴史物語」増補改訂版

「お犬養育村始末」大館欣一著武蔵野書房

#### 担 当

Eグループ 中村恵子・伊藤裕章・田沼幹子・恩田正子・小倉洋一

